

上越南地区商工会景況調査報告書

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 上越南地区（牧区、三和区、中郷区、板倉区、清里区）
イ 対象企業 同地区内商工会員
ウ 調査企業数 74 事業所（うち小規模事業者数 73 事業所）
エ 回答企業数 74 事業所
（回答率 100.0%）

(2) 調査対象期間

令和3年 1月～ 令和3年 3月
（調査時点： 令和3年1月4日）

(3) 調査方法

会員へ調査票を配布し回答を回収した。

※本報告書中の「DI」とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（上昇、好転）企業の割合から減少（低下、悪化）企業の割合を差し引いた値を示すものである。

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
1 建設業	25	33.8%	25	33.8%
2 製造業	9	12.2%	9	12.2%
3 卸売業	4	5.4%	4	5.4%
4 小売業	17	23.0%	17	23.0%
5 飲食・宿泊業	10	13.5%	10	13.5%
6 サービス業その他	9	12.2%	9	12.2%
合計	74	100.0%	74	100.0%

	小規模企業	中小企業	大企業	合計
規模別回答企業数	73	1	0	74
構成比	98.6%	1.4%	0.0%	100.0%

2. 地域内産業全体の景況概要

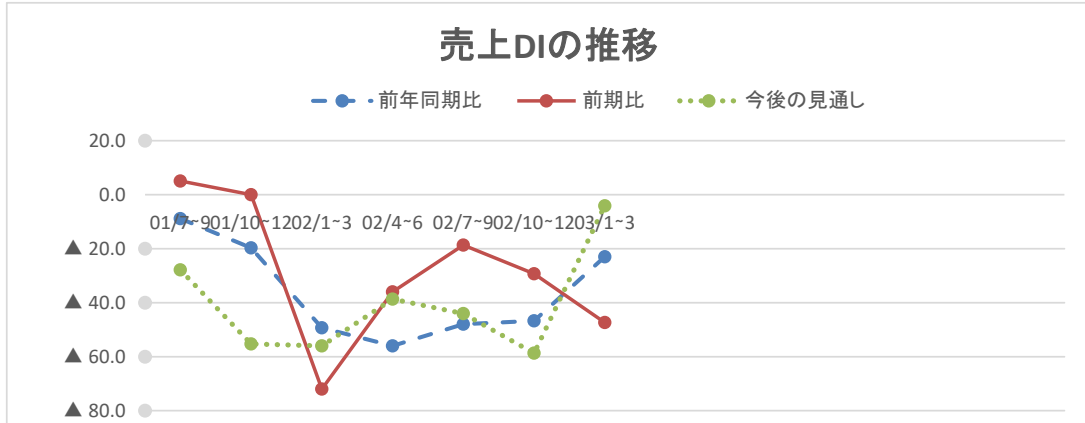
現在も新型コロナウイルスの収束の目途が立っていないことから、全業種で前期比の売上高は減少であるとの回答が多く見られた。特に、建設業・製造業・小売業については仕入単価の上昇等もあり売上や採算性をはじめとした景況判断で厳しいと言う回答も目立った。

今回の調査期間中である1月については連日の大雪が影響し、消費者も不要不急の外出を控えたことことで全業種において売上が大幅減少したと言える。

【売上高】

半数以上の事業所が前年同期比から今後の見通しまで、売上高が減少もしくは不変との回答であり、全体的に減少していることが窺える。特に、今後の見通しについては小売業とサービス業が減少との回答が多く見られた。但し、建設業においては調査企業の半数が今後の見通しで増加するとの回答が目立った。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
19	19	36	10	19	45	21	29	24

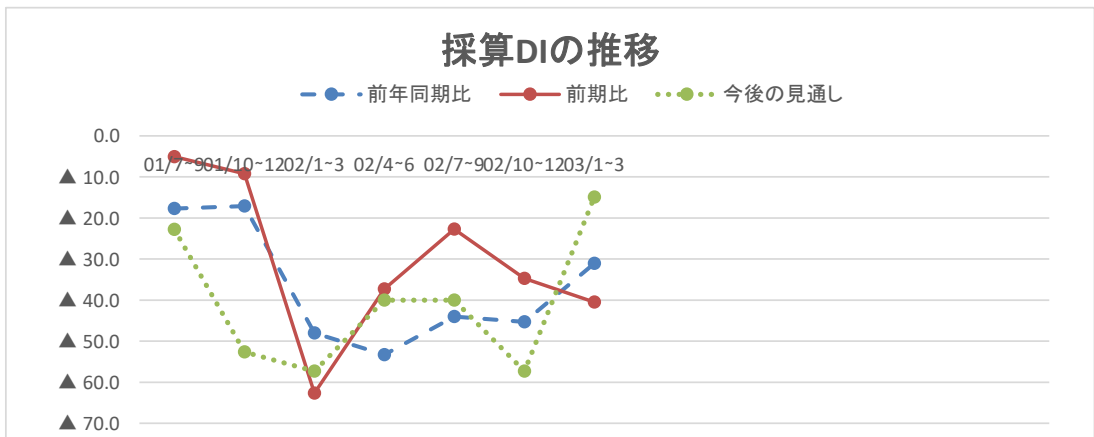


	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3					
前年同期比	▲ 8.9	▲ 19.7	▲ 49.3	▲ 56.0	▲ 48.0	▲ 46.7	▲ 23.0					
前期比	5.1	0.0	▲ 72.0	▲ 36.0	▲ 18.7	▲ 29.3	▲ 47.3					
今後の見通し	▲ 27.8	▲ 55.3	▲ 56.0	▲ 38.7	▲ 44.0	▲ 58.7	▲ 4.1					

【採算】

採算については、前年同期比と前期比においては悪化と回答した事業者が半数であり、DI推移は前期比のみ下がっている。また、仕入単価の上昇の回答が減っている影響から、特に小売業、飲食・サービス業においては今後の見通しで悪化との回答が減少した結果であった。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
13	25	36	8	28	38	11	41	22



	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3					
前年同期比	▲ 17.7	▲ 17.1	▲ 48.0	▲ 53.3	▲ 44.0	▲ 45.3	▲ 31.1					
前期比	▲ 5.1	▲ 9.2	▲ 62.7	▲ 37.3	▲ 22.7	▲ 34.7	▲ 40.5					
今後の見通し	▲ 22.8	▲ 52.6	▲ 57.3	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 57.3	▲ 14.9					

【仕入単価】

仕入単価については低下と答えた事業所は少なく、大方の事業所は不変との回答であった。しかし、前年同期比・前期比・今後の見通しは全てのD Iが上がる結果となった。また、建設業においては今後もまだ新型コロナウイルスの影響により材料等の仕入が困難なことで、仕入単価の上昇が懸念されるとの回答が多く見られた。

前年同期比

上昇	不変	低下
20	52	2

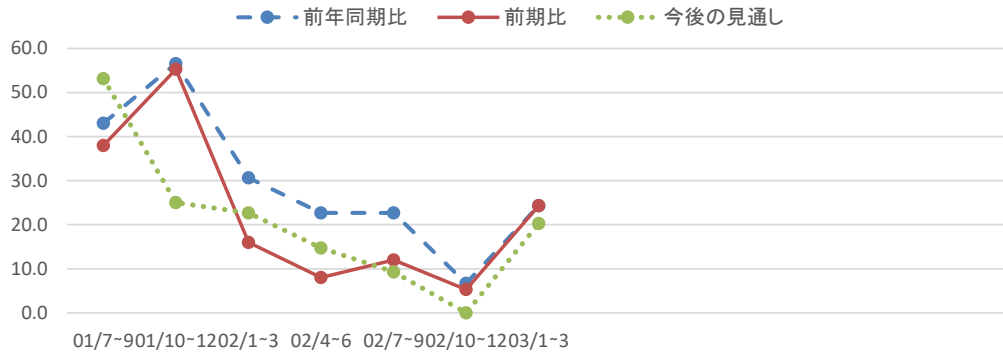
前期比

上昇	不変	低下
18	56	0

今後の見通し

上昇	不変	低下
17	55	2

仕入単価DIの推移



	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3					
前年同期比	43.0	56.6	30.7	22.7	22.7	6.7	24.3					
前期比	38.0	55.3	16.0	8.0	12.0	5.3	24.3					
今後の見通し	53.2	25.0	22.7	14.7	9.3	0.0	20.3					

【販売（客）単価】

販売（客）単価については、前回の調査同様に半数以上の事業所が前年同期比から今後にかけて不変であるとの回答であった。また、D I推移については前年同期比及び今後の見通しについては改善傾向にあるものの、前期比についてはD Iが下がっていた。未だに新型コロナウイルス感染拡大による影響で、小売業においては今後の見通しで低下するとの回答が調査企業の3割ほどであった。

前年同期比

上昇	不変	低下
5	54	15

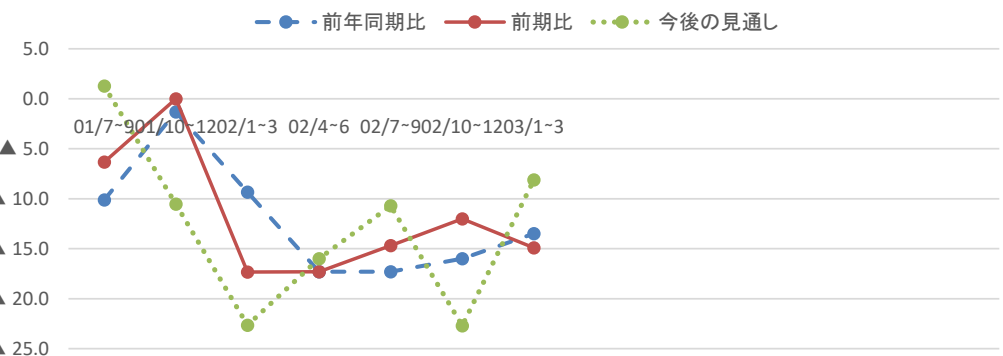
前期比

上昇	不変	低下
3	57	14

今後の見通し

上昇	不変	低下
6	56	12

販売（客）単価DIの推移



	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3					
前年同期比	▲ 10.1	▲ 1.3	▲ 9.3	▲ 17.3	▲ 17.3	▲ 16.0	▲ 13.5					
前期比	▲ 6.3	0.0	▲ 17.3	▲ 17.3	▲ 14.7	▲ 12.0	▲ 14.9					
今後の見通し	▲ 1.3	▲ 10.5	▲ 22.7	▲ 16.0	▲ 10.7	▲ 22.7	▲ 8.1					

【資金繰り】

資金繰りについては、大方の事業所が前年同期から今後にかけて不変であるとの回答であった。但し、前年同期比から今後の見通しで好転と回答した事業所が若干あったことから、D I 推移では全体的に上昇となった。なお、前回調査と比較すると卸売業・小売業・サービス業が悪化と多く回答されたのは、新型コロナウイルス感染拡大により売上が減少したことが要因と思われる。

前年同期比

好転	不変	悪化
4	51	19

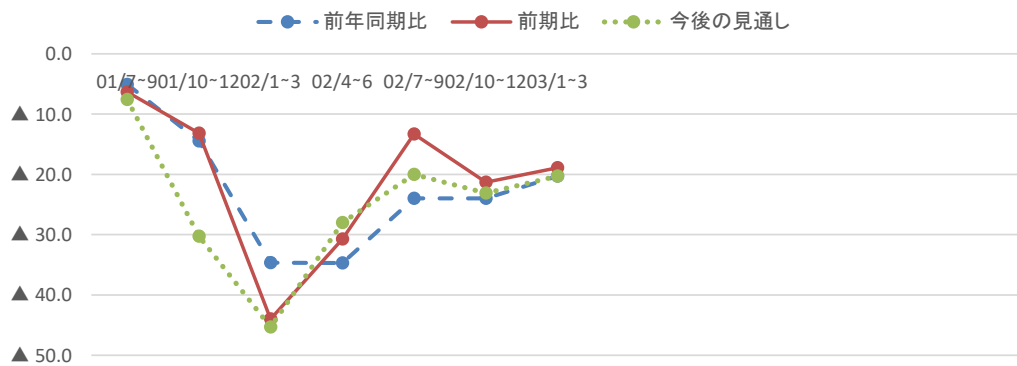
前期比

好転	不変	悪化
2	56	16

今後の見通し

好転	不変	悪化
1	57	16

資金繰りDIの推移



	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3					
前年同期比	▲ 5.1	▲ 14.5	▲ 34.7	▲ 34.7	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 20.3					
前期比	▲ 6.3	▲ 13.2	▲ 44.0	▲ 30.7	▲ 13.3	▲ 21.3	▲ 18.9					
今後の見通し	▲ 7.6	▲ 30.3	▲ 45.3	▲ 28.0	▲ 20.0	▲ 23.1	▲ 20.3					

【雇用動向】

雇用動向については8割以上の事業所が不変との回答であったが、D I 推移では前年同期比・前期比・今後の見通しと全てが上昇している。また、継続的に調査はしているが減少との回答はほぼ横ばいである。

前年同期比

増加	不変	減少
3	63	8

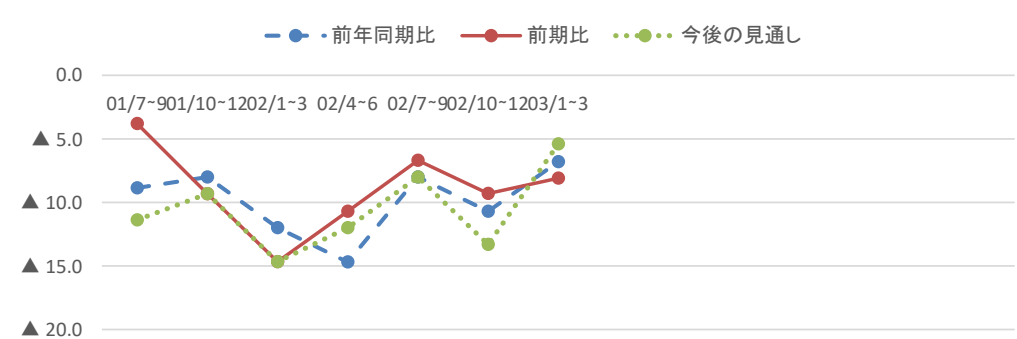
前期比

増加	不変	減少
0	68	6

今後の見通し

増加	不変	減少
3	64	7

雇用動向DIの推移

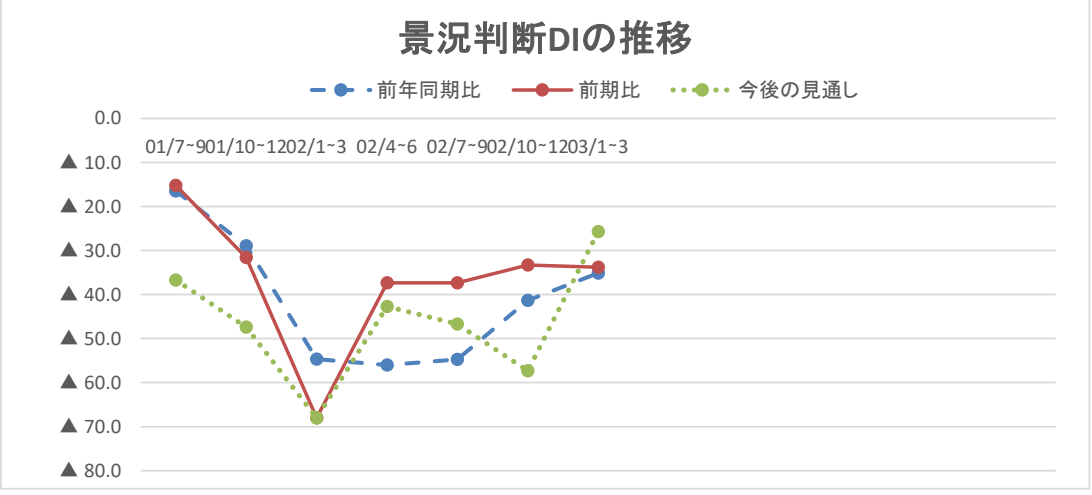


	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3					
前年同期比	▲ 8.9	▲ 8.0	▲ 12.0	▲ 14.7	▲ 8.0	▲ 10.7	▲ 6.8					
前期比	▲ 3.8	▲ 9.3	▲ 14.7	▲ 10.7	▲ 6.7	▲ 9.3	▲ 8.1					
今後の見通し	▲ 11.4	▲ 9.3	▲ 14.7	▲ 12.0	▲ 8.0	▲ 13.3	▲ 5.4					

【景況判断】

景況判断については、前年同期比のみ半数近くの事業所が悪化と回答。また、前期比・今後の見通しについては少しずつはあるが悪化との回答が減少している。DI推移においては前期比は僅かであるが下降してるが、今後の見通しについては大幅に上昇との結果となった。但し、小売業については今後の見通しも危ういのではないかと不安視するコメントが目立った。

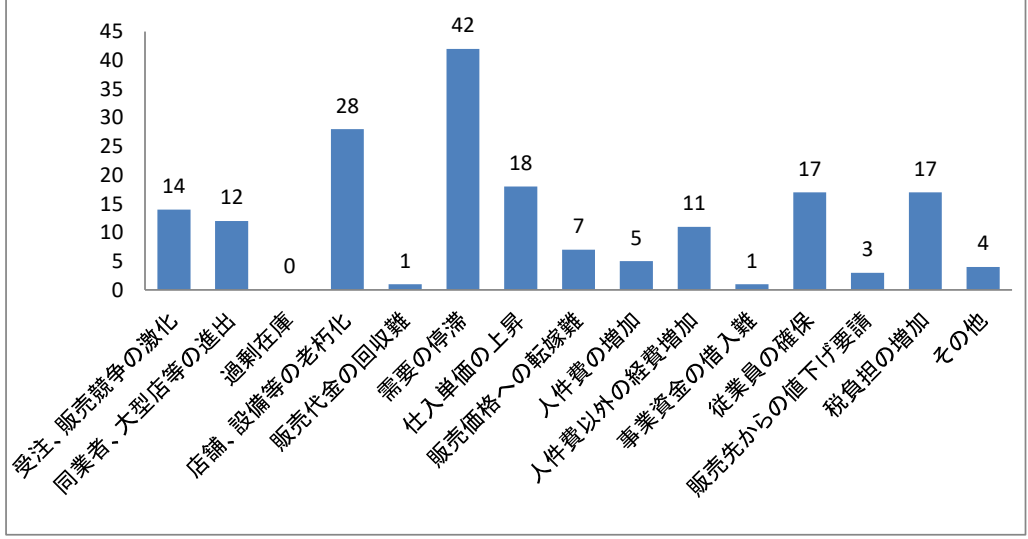
前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
8	32	34	5	39	30	8	39	27



	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3						
前年同期比	▲ 16.5	▲ 28.9	▲ 54.7	▲ 56.0	▲ 54.7	▲ 41.3	▲ 35.1						
前期比	▲ 15.2	▲ 31.6	▲ 68.0	▲ 37.3	▲ 37.3	▲ 33.3	▲ 33.8						
今後の見通し	▲ 36.7	▲ 47.4	▲ 68.0	▲ 42.7	▲ 46.7	▲ 57.3	▲ 25.7						

【経営上の問題点】

経営上の問題点については新型コロナウイルスが収束しないことが影響し、前回調査と同様に「需要の停滞」が最も多く、次いで「店舗、設備等の老朽化」「仕入単価の上昇」が問題点として挙げられていた。「需要の停滞」については、特に小売業を中心に問題点として挙げている事業所が多く見受けられた。また、建設業は「従業員の確保」「仕入単価の上昇」を問題点として挙げた事業所が多く特徴的であった。現在の経営環境下において貴社が感じておられることは、顧客の高齢化や従業員の確保等が挙げられている。



3. 産業別景況概要

(1) 建設業

建設業においては、売上以外の全ての調査項目で不変との回答が多く見られた。ただ、売上については大雪の影響で除雪の請負が多いことで前期同期比及び前期比は好転との回答が多く、更には今後の見通しで好転と回答した事業所が半数であった。経営上の問題点に関しては「従業員の確保」との回答が目立ち、これについては従業員の高齢化や後継者不足からと思われる。また、次に「需要の停滞」「仕入単価の上昇」を挙げる事業所が多かった。

(2) 製造業

製造業の売上及び採算性については、不変・減少と回答した事業所が目立った。但し、今後の見通しにおいては調査した事業所の3割が好転との回答であった。また、仕入単価については前年同期比・前期比・今後の見通しで上昇するとの回答した事業所もあった。経営上の問題点としては、「需要の停滞」を挙げる事業所が多く見られた。

(3) 卸・小売業

卸・小売業においては前回調査と同様に売上・採算性ともに前年から今後にかけて大方減少傾向にある。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない状況のほかに、今冬の大雪が影響で不要不急の外出自粛もあり、前回調査に引き続き売上は減少傾向。経営上の問題点として多くの事業所が「需要の停滞」を挙げていたほか、「店舗、設備等の老朽化」と「同業者、大型店等の進出」も問題点として多く挙がっていた。

(4) サービス業（飲食・宿泊を含む）その他

サービス業においては、売上及び採算性は大方の事業所が前年同期比から今後の見通しまで減少あるいは悪化傾向にあるとの回答が目立った。飲食業についてはGo To Eatの販売が停止中。さらには、サービス業においてはプレミアム商品券事業も終わったことが影響し、今後も厳しい状況と続くと思われる。また、飲食・宿泊業及びサービス業の最も多い経営上の問題点に上げられていたのが「需要の停滞」であり、次に「店舗、設備等の老朽化」が挙げられており、卸・小売業と同様な経営課題を抱えている状況であった。

今後の事業・経営において強化したい・期待したい点（設備投資・販路開拓等）や現在の経営環境下において貴社が感じておられる自由意見

【 建設業 】

- ・ 安定的な受注
- ・ 営業力の強化
- ・ 販路開拓
- ・ ひにくな事に大雪被害の需要が大
- ・ 従業員の高齢化に伴う人材の確保。コロナ禍による停滞化

【 製造業 】

- ・ コロナの影響で売上が落ちています
- ・ 機械設備による新商品の開発が重要。現在検討中。
- ・ コロナ禍で生活様式が変わってきたが、今後の変化にどの様に対応すべきか販促をどうすればいいか難しい

【 小売業 】

- ・ コロナの影響が大きい
- ・ コロナの影響で売上げが下がり傾向ですが、今後はどうなっていくのかを見ていき商品はどうしたら売って行けるのか？または価値を上げていけるのか？を回りの意見自分で考えて売上げを伸ばしたいです
- ・ 売上高増にするための見当と固定費等の見直し

【 サービス業（飲食・宿泊を含む）その他 】

- ・ 固定客の高齢化により今後の顧客減少が不安
- ・ 多少ではあるがコロナ感染症の風評被害があった
- ・ コロナ対策のチャレンジ補助金や事業再開枠補助金を使って設備投資を検討している
- ・ コロナ禍で経営が厳しいが補助金で助かっている。商工会が申請支援をしてくれるかやろうという気持ちになる